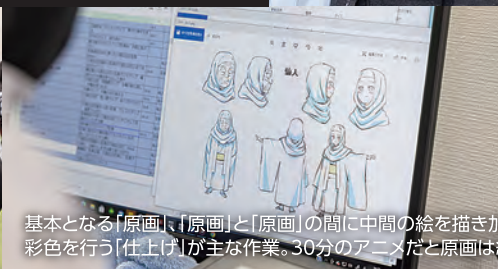


秋田のみなさん こんにちは!

アニメ業界に革命を
秋田から、世界へ!

株式会社つむぎ秋田アニメLab

代表取締役の櫻井司さん(左)、秋田スタジオマネージャーの桑原智也さん(右)



基本となる「原画」「原画」と「原画」の間に中間の絵を描き加えて動きを出す「動画」、描き上げた作画に彩色を行う「仕上げ」が主な作業。30分のアニメだと原画は約300カット、動画は2500~3000枚が必要。

作画のスペシャリストでありマネジメントの経験も持つ櫻井司さんは、2017年に東京で「つむぎ作画技術研究所」を設立。埼玉県川口市への移転を経て、2020年4月に「つむぎ秋田アニメLab」として秋田市に本社を移転。現在は秋田本社スタジオと川口スタジオで業務を行う。

秋田発のアニメーションスタジオ!

社会現象にもなった映画「鬼滅の刃」の制作にも携わった「株式会社つむぎ秋田アニメLab」では、原画、動画、仕上げなどアニメーションの根幹となる「素材制作」を請け負っている。

代表取締役の櫻井司さんが事業拡大とリスク分散のため地方進出を検討していた折に、専門学校の同期だった桑原智也さんが地元の秋田を案内した縁で、2020年4月に本社を秋田市に移し、桑原さんは秋田スタジオマネージャーに就任した。

「アニメーション制作は分業化されていて、工場のラインでの大量生産に似ています。業界の構造は独特で、有名な制作会社やスタジオでも、フリーランスとそのアシスタントの詰所のような状態での制作が慣習化しているので、クリーンな働き方を普及させ、海外への技術流出を防ぐ手立てを講じないと、日本のアニメ業界が立ち行かなくなるのではないかと危機感を持っていました」と桑原さんは話す。

年々増加する制作本数に対し、国内のアニメーターは慢性的に不足しているという。業界の健全化と発展を目指し、櫻井代表は秋田への移転を機に、かねてから計画していたスタッフの正社員化を実現し、アニメーターの育成事業も枠を拡大した。

アニメーションビジネスの新しい形を

安定した品質と短納期、急な修正への対応という会社組織ならではの強みから、つむぎ秋田アニメLabへの仕事の依頼は途切れることなく、常時並行して7~8作品を手掛けている。同社が運営する「アニメーター予備校」は「現場で学ぶ」をコンセプトに、現役社員と同じフロアで最長2年、徹底的に基礎となる画力を身に着けることで即戦力の雇用に繋げる。

「アニメーション制作は“人”が資本です。この春には9名の新規採用を予定しており、事業所を拡大しながら、毎年10名のペースで増員していく計画です。行政機関などにも支援いただきながら、アニメーションビジネスの新しい形を秋田で作っていただければと考えています。日本を代表するスタジオを目指したいです」と櫻井代表は話す。

同社は昨年、国内アニメーション制作者の育成と技術継承、その環境づくりを推進する「令和2年度アニメーション人材育成調査研究事業」を文化庁から受託し、現在、短編作品の制作を進めている。

櫻井代表が監督を務め、桑原さんとともにプロデュースする、シナリオから素材制作まで完全オリジナルの作品が、まもなく公開される予定だ。



秋田スタジオ マネージャー
桑原 智也
Tomoya Kuwahara

株式会社つむぎ秋田アニメLab

〒010-0922
秋田県秋田市旭北栄町1-48
トラパントビル4階403号室
TEL.018-827-7066
<https://www.tsumu-sakuga.com/>

事業内容

アニメーション制作

